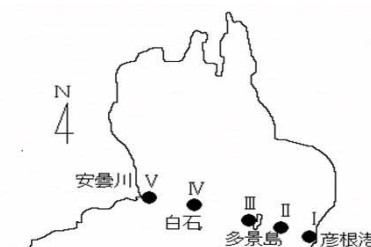


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年2月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和5年2月13日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

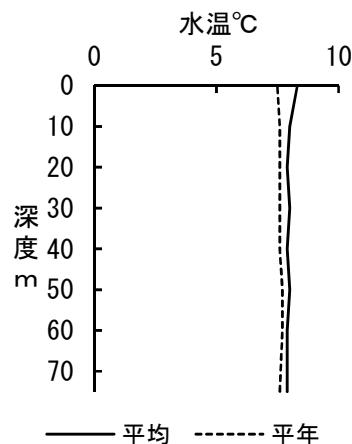
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 2月平均値 6.4m 平年値 6.8m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	2月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	8.3	7.5	+0.8
10	8.0	7.6	+0.4
20	7.9	7.6	+0.3
30	8.0	7.6	+0.4
40	7.9	7.6	+0.3
50	8.0	7.7	+0.3
60	7.9	7.7	+0.2
75	7.9	7.6	+0.3



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
1月下旬	7.2	7.1	+0.1
2月上旬	7.4	6.8	+0.6
2月中旬	7.3	6.9	+0.4

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	2月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	4.4	4.3	+0.1
10~20	1.3	1.8	-0.5
20~40	1.2	1.6	-0.4
40~75	1.0	1.1	-0.1

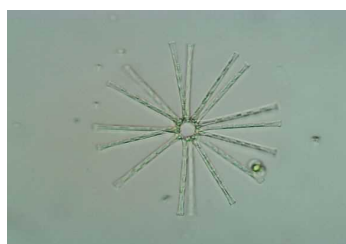
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

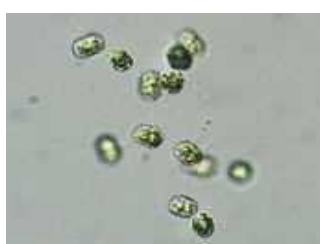
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは、全ての地点で*Asterionella formosa* (ホシガタケイソウ:珪藻)が細胞数で最も多く認められたほか、*Cosmocradium constrictum* (コスモクラヂウム:緑藻)も全地点において細胞数で多く認められた。

動物プランクトンは全ての地点で*Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が個体数密度で最も多く認められた。



Asterionella formosa



Cosmocradium constrictum



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L)

深度 (m)	2月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.7	75.7	11.1	96.5	-0.4	(-20.8)
10	10.8	76.5	10.9	95.5	-0.1	(-19.0)
20	10.6	74.8	10.7	93.9	-0.1	(-19.1)
30	10.4	73.3	10.7	93.8	-0.3	(-20.5)
75	10.0	70.6	9.8	84.4	0.2	(-13.8)